

# この子らと

令和5年5月号

## 命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

### “新年度がスタートとして早一か月”

「この虫なーに?」「このお花は、なんというの?」「見て、見て!」などと、子どもたちが、夢中になって遊んでいます。

一か月经過しました。新しい学級の場所や職員の動き等に戸惑い・不安感をもっていた子どもたちです。少しずつ自分の居場所がわかってきたのか、落ち着きを取り戻し、園生活のリズムで過ごせるようになってきています。

教師の奏でるピアノの音と子どもたちの元気な歌声が園内に心地よく響き渡っています。

### 「花明かり」



朝、目が覚めると、レースの向こうがやけに明るい。カーテンを開けると庭のこぶしの花が満開だった。以前亡くなった祖母が教えてくれた「花あかり」という言葉をふと思い出した。

心のアンテナの感覚を少し上げると、小さな発見がとても新鮮に見えてくる。(鹿児島市女性)

「花明かり」とは、桜の花が満開で、夜でもあたりがほの明るく見える様子を言っています。

### 心のアンテナ(感性)の教育・保育

「感性」とは、その子なりの感覚によって、さまざまな世界をとらえる力です。

「楽しいな」「気持ちいいな」「美しいな」「不思議だな」「何でだろう」「変だな」などと感じる全てのことです。

子どもたちは、生活や遊びの中で、五感を通して、いつも楽しさや心を動かされるできごとと出会います。



(五感⇒視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚)

自然の中で見つけた面白い形の葉っぱで遊びを見つけることで、「発想力・想像力」が養われます。



命ある昆虫等に触れることで、生命の神秘性を感じたり、土や水に直接触れて遊ぶことで健康で丈夫な体や情緒の安定が育まれます。

「感性」は、様々な豊かな体験を通して、少しずつ育まれていきます。

園では、自由遊びや意図的計画的に設定した保育、並びに園バスを活用した園外保育等で、五感を震わす体験を通して、「生きて働く感性」を培っています。

### 心の中のインデックスは「顔」

楽しいことやうれしいことがあれば、人は、微笑む。悲しいことや辛いことがあれば、表情は険しくなる。

人間には、ほほえみが一番、似合う。ほほえみは、感謝の気持ちから生まれる。

感謝は人生を豊かにしてくれる。



保護者のみなさまはもちろん、本園職員も様々な悩みや悲しみを背負って生きています。

辛く悲しいこともあると思います、ぐちをこぼしたくなる時もあると思います。

そんなときこそ、子どもたちのことを思い、気持ちをコントロールして、笑顔で愛情あふれる言葉で接しているのが本園職員だと思っています。

平凡な教師は、指示をする。良い教師は、説明をする。優秀な教師は、やってみせる。最高の教師は、子どもの心に灯をつける。(アーサー・ウォード)

子どもの心に灯を付けるとは、子ども自らが主体的に活動する学びの心を引き出す教師です。